



1_ 放牧の再開を祝い、搾りたての牛乳で乾杯する関係者ら 2_「町営磐梯山牧場で放牧を再開することができて良かったです」と笑顔を見せる小鮎広義さん 3_「草地更新」を行うための作業の一つである、「プラウ耕」の様子。トラクターを使用して表層と下層の土壌を入れ替えている（平成 28 年 7 月撮影）



6 年ぶりに牛が放牧された町営磐梯山牧場

町営磐梯山牧場 6 年ぶりの放牧

東京電力福島第一原発事故の影響で放牧を自粛していた町営磐梯山牧場。
6 年ぶりに牛の放牧が再開され、牛 16 頭を受け入れしました。

牧場に牛が戻ってきた

町営磐梯山牧場の開牧式は 6 月 23 日に同所で行われ、関係者ら約 50 人が出席し、放牧の再開を祝いました。この日は、町内外の畜産農家が飼育する肉牛 8 頭と乳牛 8 頭の計 16 頭が約 15 畝の放牧地に放されました。

開牧式では、前後公町長が「原発事故により、平成 24 年度から放牧を中止せざるを得なくなりましたが、ようやく再開することができました。関係者の皆さんのご協力に感謝します」とあいさつ。出席者は、町牧乾草生産組合長の浅川通さんが飼育する乳牛から搾乳した牛乳で乾杯しました。

放牧の自粛から再開までの道のり

町営磐梯山牧場は、畜産農家の経営構造の改善を図るため、昭和 43 年に開設され、町の畜産振興の拠点として活用されてきました。また、本牧場は、磐梯山の麓に位置し、猪苗代湖を一望できる風光明媚な場所として、町民はもとより県内外から多くの観光客が訪れ、本町の観光資源としても大きな役割を果たしてきました。

しかし、牧場は大きな試練に見舞われることになります。平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、平成 23 年に生産された本町の牧草から、当時の暫定許容値を上回る放射性物質が検出されます。このことから、本町全ての牧草の利用が制限され、平成 24 年度から放牧の自粛を余儀なくされました。

町では、県営農再開支援事業の採択を受け、平成 25 年度から「草地更新」に着手します。「草地更新」では、表土を深く耕す天地返しを行ったほか、牧草の吸収抑制対策のため塩化カリなどの肥料を散布しました。町営磐梯山牧場には大小多数の石が埋まっていたため、作業は困難を極めました。関係者の努力により一連の作業を平成 28 年度で完了。牧場全ての草地約 72 畝の更新を行いました。

町では、草地更新後の放射性物質のモニタリング検査を行った結果、暫定許容値を大幅に下回り、牧草の安全性を確認することができたため、放牧再開に向けて準備を進めてきました。牧場を管理する町振興公社の小野秀男課長は、「今後徐々に受入数を増やし、40 頭程度を放牧したいです」と話しました。



【VOICE】
町振興公社牧場主任
鈴木喜徳 さん

福島の復興につながる

原発事故という絶対にあってはならないことが起き、悲しい思いが続いていました。6 年ぶりに牛が放牧された風景を見ると「ああ、これが本来の町営磐梯山牧場の姿なんだなあ」と感慨深いものがあります。この牧場には、春の桜のシーズンや夏休みになると、県内外から大勢の観光客が訪れます。今年の夏には、また子どもたちの歓声が戻ってくると、着実に福島の復興につながっていると感じます。



【VOICE】
町牧乾草生産組合
成田昌夫 さん

安心して飼育できる

町営磐梯山牧場での放牧ができなくなってしまったため、これまでは北海道の牧場に放牧に出していました。畜産農家の数が年々減少していることもあり、町営磐梯山牧場はもう再開できないのではないかと半ば諦めていました。関係者の皆さんの努力に頭が下がります。地元で放牧に出すことができれば、牛の状態をすぐに確認することができ、安心して飼育することができます。今後は、徐々に放牧する頭数を増やしていきたいです。